

第4回圧力設備規格審議委員会 議事録

1 日時：平成20年5月23日(金) 14:00～16:40

2 場所：第七東ビル1階会議室

3 出席者：(順不同・敬称略)

能登委員長(千代田)、酒井副委員長(T E C)、磯村(KHK/荒井委員代理)、鴻巣(茨城大)、石毛(IHI)、木原(ベストマテリア)、澤(広島大)、黒沢(横河電機/浅田委員代理)、佐藤(日揮)、澤木(日立/下村委員代理)、寺田(神戸製鋼)、内野(東ガス)、金川(ガス協会)、樋口(IHI)

事務局：大西、田畑、田中(HPI) 以上17名(委員数14名)

4 資料番号：圧力設備規格審議 4

1. 第3回圧力設備規格審議委員会 議事録案
2. 圧力設備規格審議委員会ワーキンググループ運営規則
3. HPIS A 102 2000(日本高圧力技術協会規格作成基準)の改正案作成ワーキンググループ設置についての付議
4. HPIS Z 103 TR 及び HPIS Z 104 規格廃止についての付議
5. HPIS Z101-1 圧力設備規格審議委員会委員コメント
- 6 - 1 HPIS Z101-1 まえがき、目次、本文(案)
- 6 - 2 HPIS Z101-1 附属書1～7(案)

5 議事

能登委員長の司会のもと、以下の議事が進められた。

5.1 前回議事録の確認

資料4-1により、前回議事録案が読み上げられ、一部語句訂正の上、満場一致で承認された。訂正箇所は、5-6項細別2項目、「・・・記載がない理由は・・・」を「・・・記載がない理由について・・・」へ訂正、5-6項細別5項目、「・・・Kの小の場合・・・」を「・・・Kが小の場合・・・」へ訂正。

5.2 圧力設備規格審議委員会ワーキンググループ運営規則の審議結果について

資料4-2によって、事務局から3月26日開催第6回理事会における圧力設備規格審議委員会ワーキンググループ運営規則の審議結果についての報告があった。理事会における審議の結果、圧力設備規格審議委員会ワーキンググループ運営規則は一部訂正の上で承認され、3月27日より施行となった。訂正部分は第11条「理事会及び各委員会における交通費、旅費、その他謝礼支給内規」でコメントにより括弧が追加になった。

5.3 HPIS A 102 2000(日本高圧力技術協会規格作成基準)の改正案作成ワーキンググループ設置についての付議について

事務局より、資料4-3によって、HPIS A 102 2000(日本高圧力技術協会規格作成基準)の改正案作成ワーキンググループ設置について委員会に付議された。検討特定議題及びワーキンググループ委員について、審議の結果満場一致で原案通り可決された。

5.4 HPIS Z103 TR(フランジ継手締付け指針)及びHPIS Z104(管フランジ用ガスケットの基本密封特性試験方法)規格廃止についての付議について

資料4-4によって、事務局からHPIS Z 103 TR 及び HPIS Z 104 規格廃止が委員会に付議された。申請審議レベル(パブリックコメント実施なし)とし、規定上は書面投票が必要である

が、JIS として制定されたことに伴う HPIS 廃止であるので、例外的に書面投票は必要なしということで満場一致で可決された。

5.5 HPIS Z101-1 圧力設備規格審議委員会委員コメントの審議について

資料 4-5 を事務局が説明し、資料 4-6-1、資料 4-6-2 により、原案作成者、維持規格分科会鴻巣主査より説明を行い、審議を行った。

- ・「亀裂」は JIS に合わせて「き裂」に統一する。
- ・本文 1.1 適用対象設備の記述は「設備に対して適用する」を「設備に対して適用できる」に変更する。これは元の記述は誤解を与える恐れがあるためである。
- ・本文 3.2 d)の最後に分かり易くするために「欠陥が溶接部にある場合には e 項による。」と文章を追加する。
- ・本文 図 3.2 の厚さに注 b)を追加する。7 ページの注 b)の記述に「図 3.2 の衝撃試験免除曲線における厚さおよび材料の指定は」のように下線部を追加する。これは厚さの意味を明確にするためである。
- ・本文「5.解析要員、組織などの要件」の下線部を削除する。これは組織に関する記述が本文にないため。

以上の議論を踏まえ、次の事項が挙手による採決により、満場一致で可決された。HPIS Z101-1 について 15 日間の書面投票に付すこととし、書面投票資料として、訂正した本文のみを PDF で事務局から各委員に送付する。圧力設備規格審議委員会の開催なしで、パブコメにかけるかどうかは書面投票の結果をみた上で委員長の判断にまかせる。

6 次回予定

6.1 未定

以上